

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 10 月 4 日

事業所名

Aile

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5名		十分な訓練スペースの確保ができています。	室内だけでなく、事業所の庭なども活用して訓練のバリエーションを増やしていく。
	2	職員の配置数は適切である	5名		児童数に対して適切な人員確保ができています。	研修受講や資格取得などを行い、質の向上を図っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5名		分かりやすい構造化、スロープや手すりの設置など、配慮ができています。	バリアフリー化に関して、少しでも段差をなくすよう検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5名		活動に合わせた空間づくりを心掛け、日々の清掃で清潔を保っている。	今後も日々の清掃で清潔を保ち、児童の活動空間の確保に努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5名		職員会議の中でPDCAサイクルを行っている。	今後も継続して行っていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5名		アンケート結果を受け入れ、改善に努めている。	スタッフと保護者の認識のズレを把握し、解消に努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5名		集計後、ホームページで公表していく。	集計後、ホームページで公表していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5名	他事業所からのアドバイスなどを取り入れている。	第三者による外部評価は行っていないので、今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5名		参加できる研修には積極的に参加している。	今後も、必要に応じて研修への参加を積極的に行っていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5名		適切なアセスメントを行い、児童発達支援管理責任者が作成している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5名		5領域が含まれたツールを用いて、児童発達支援管理責任者が作成している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5名		ガイドラインに沿った個々の課題を設定し、具体的な支援内容を明記している。	今後も、日々改善を行い質の向上を図っていく。また、他事業所の情報も聞き入れながら広い視野を持って作成していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5名		児童発達支援計画に沿った支援を行っている。	他事業所の活動や訓練なども参考にしながら、質の向上を図っていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5名		会議の中で一つのチームとして立案を行っている。	今後もチームとして支援していけるよう継続して行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5名		季節に合わせた活動や訓練を行っている。	他事業所の活動や訓練なども参考にしながら、質の向上を図っていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5名		日々の状況に合わせて活動できるよう作成している。	身体と心の状態を把握した上で支援できるよう引き続きサポートしていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5名		業務開始時に当日利用の児童について会議を行っている。	今後も継続して、事前の会議を行っていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5名		送迎終了後に当日の出来事などの振り返りを行っている。	もっと時間を確保できるよう、検討していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5名		支援記録等の記録をしっかりとれている。	今後も、支援計画に基づいた記録を行っていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5名		6カ月内に1回モニタリングを行い見直しをしている。	必要に応じて、不定期での見直しも行っていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4名	1名	児童発達支援管理責任者だけでなく、担当スタッフが参加している。	今後も、会議に最もふさわしいスタッフの参加を促していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5名		計画相談員を通じて必要な連携を行っている。	今後も積極的に連携を図り、適切な支援を行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5名		現在、医療ケアが必要な児童がいない。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れる際に連携をとれるよう努めていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5名		現在、医療ケアが必要な児童がいない。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れる際に連携をとれるよう努めていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5名		担当者会議や送迎時などに情報を得ている。	今後も情報共有を行い、相互理解を深めていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5名		担当者会議や送迎時などに情報を得ている。	今後も情報共有を行い、相互理解を深めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名		研修や部会などに参加している	今後も他事業所と連携し、助言やアドバイスを受けていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5名		検討中	インフルエンザやコロナなどの影響でなかなか受け入れが難しい状況があったので、引き続き交流する機会を作るよう検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5名		市の協議会へ参加している。	今後も、積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5名		対面を基本とし、電話やメール、LINEなどを活用し児童の情報共有ができています。	今後も引き続き、細かい情報共有を行っていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4名	1名	個別でのサポートを行っている。	今後は保護者交流会などを開催し、ペアレントトレーニングを行っていく。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5名		契約時に説明を行っている。	引き続き、丁寧に説明していく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5名		計画書を作成後に内容説明し、確認後に同意を得ている。	今後も丁寧な説明を行い、保護者の安心に繋げていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5名		必要に応じて、個別での面談などで対応している。	引き続き、保護者の困り感をキャッチしてサポートしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5名	保護者会などはまだ開催できていない。	今年度中に開催予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5名		利用予定などに関して柔軟に対応できている。	運営基準(定員)を守りながら、臨機応変に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5名		毎月のお便りを発行している。	引き続き発行していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5名		個人情報漏洩の無いよう、配慮している。	今後も引き続き漏洩のないように注意していく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5名		言葉だけでなく、絵カードや筆談を用いて対応している。	今後も、スムーズな意思疎通ができるよう配慮していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3名	2名	交流はあるが、行事の開催、招待はできていない。	地域全体が参加できるようなイベントを検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4名	1名	各マニュアルを作成し、実施している。保護者に周知が行きわたってない可能性がある。	マニュアルを定期的に見直していく。また、保護者にも周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5名		定期的な訓練を行い、災害発生を想定した訓練ができている。	今後も引き続き、万が一に備えて訓練を行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5名		契約時に児童の状態や服薬情報などを確認している。	てんかん発作時の対応など、定期的に再確認していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5名		契約時にアレルギーの有無を確認している。	定期的にあレルギーの有無を確認していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5名		想定されるケースを作成し、共有できている。	現時点でヒヤリハットはないので、今後も未然に防げるよう対応していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5名		定期的に虐待防止研修を受講して事業所内で共有している。	引き続き、細かい情報共有を行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5名		現時点で身体拘束の対象者(想定される児童)がいない。	身体拘束が想定される児童の受け入れの際には、しっかりと準備し計画書に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。